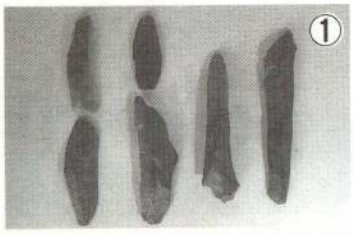
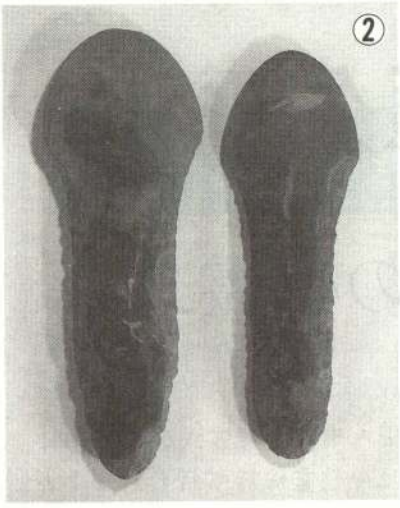
# 鋒形石器など4件
# 市文化財に指定

市教育委員会は六月十五日、山館上ノ山遺跡から出土した鋒形石器など、市内での出土品四件（十二個）を市文化財に指定しました。遺跡からの出土品（埋蔵文化財）の指定は今回が初めてです。これで市指定の文化財は二十件となり、国・県指定の文化財と合わせると三十四件となります。今回は、新たに指定した四件の文化財をご紹介します。


①


②

③

④

## ①大型ナイフ形石器 6個

▽出土地　松木字高館平地内（高館平遺跡）
▽所　在　松木字大上
▽所有者　藤垣　貞一

昭和六十年秋に発見された旧石器時代（紀元前二万五千年～同一万三千年）の石刃技法によって作られたナイフ形のもの。六個とも石材は珪質頁岩で、そのうちの二個は、長さ二十二・八㌢、十九・二㌢と、全国でもあまり例のない大型です。

これらの石器は、米代川流域はいうにおよばず、東北地方北半地域においても最も古い文化遺産です。

## ②鋒形石器 2個

▽出土地　山館字上ノ山地内（山館上ノ山遺跡）
▽所　在　字中城
▽所有者　大館市教育委員会

昭和六十二年十二月に県教育委員会の発掘調査で出土した縄文時代前期中葉（紀元前三千年）ころの石器で、鋒先形の半磨製・半打製の特殊な形のもの。二個とも石材は緑泥片岩で、一個は長さ三十七・六㌢、刃部長さ九・六㌢、刃部最大幅十三・二㌢、重量千九百五十四㌘、もう一個は長さ三十四・〇㌢、刃部長さ九・〇㌢、刃部最大幅十一・四㌢、重量千三百十一㌘。いずれも特別の儀式や祭祀に用いられた宝器と考えられます。

類例は、岩手県気仙郡住田町二度成木沢遺跡と鹿角市八幡平字永田瀬根からの出土が知られていますが、二度成木沢遺跡出土のものは現在所在が不明、永田瀬根出土のものは偶然の発見で出土地点が不明です。山館上ノ山遺跡から出土したのは、発掘調査によって発見されたもので、他に比べて資料的価値が極めて高いといえます。

## ③土偶 1個

▽出土地　大茂内字塚ノ下地内（塚ノ下遺跡）
▽所　在　字中城
▽所有者　大館市教育委員会

昭和五十三年春に県教育委員会の発掘調査で出土した縄文時代後期前葉（紀元前千五百年）ころの土偶で、完全な形に復元できたもの。身長二十四・〇㌢、肩幅十二・五㌢、胴部の厚さ一・八㌢で、首を前に突き出し、顔面は丸形であごがとがり、両眼には天然のアスファルトが充塡され、眉が隆起し、眉間には鼻孔があけられています。胴は身長の三分の二以上あり、下腹部にへそがついていて、脚部は大きく内湾しています。全体的に肩をいからし、両脚は大地をしっかりと踏まえ、天空を見据えている、縄文時代後期土偶の逸品です。

この土偶は、呪術的な祭祀にかかわる遺物と考えられます。

## ④珠洲焼の壺 3個

▽出土地　花岡町字長森地内（長森遺跡）
▽所　在　花岡町字長森
▽所有者　大森　弘人

昭和五十七年夏に水田耕作土転換の時に発見され、十二世紀後葉から十三世紀初頭（平安時代末期～鎌倉時代初期）に能登半島の珠洲を窯元とするもの。口径二十一・〇㌢、器高三十七・〇㌢、たたき目だけの無文のものと、口径十一・五㌢、器高二十四・〇㌢、肩部に把手の付いた四耳壺で体上部に櫛目の波状文が施されているもの、口径十一・〇㌢、器高二十五・〇㌢の四耳壺のものです。三個ともこれまで日本海沿岸各地で発見されている同類のものに比べ、きわめて優秀な作品です。